

## ◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例(女性, 10歳未満)あります。症状は, 2日以上続く発熱, 発疹, 血小板減少で, 感染地域はフィリピンです。
- ・ **ウイルス性肝炎(サイトメガロウイルス)**の報告が1例(女性, 30歳代)あります。症状は, 全身倦怠感, 発熱, 肝機能異常, 発疹です。推定感染地域は国内で, 感染経路は不明です(第20週(5月14日～5月20日)追加分)。
- ・ **風しん**の報告が2例(男性, 20歳代)あります。本年の年間累積報告数は, すでに12例と, 平成20年に全数把握疾患へ変更されてから最も多くなっています。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は8.37(343例)で, 先週に比べ減少しましたが, 大型連休を含む第18週(4月30日～5月6日)を除き, 第15週(4月9日～4月15日)以降, 過去5年平均値を大幅に上回っています。年齢階級別では, 2歳が48例(14.0%)と最も多く, 次いで1歳46例(13.4%), 3歳37例(10.8%)の順で, 6箇月から3歳までで, 56.3%を占めています。

## ◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は, 2.54(104例)で過去5年平均値(1.15)の2倍以上となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 7例(肺結核 5例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 176例(肺結核 73例, その他結核 40例, 潜在性結核感染者 63例)うち喀痰塗抹陽性 39例】
- ・ 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: ウイルス性肝炎(サイトメガロウイルス) 1例(第20週追加分)【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 風しん 2例【1月以降の累積報告数 12例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.09	6
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.37	343
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.54	104
	③ 水痘	1.17	48
	④ 突発性発しん	0.51	21
	⑤ 咽頭結膜熱	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

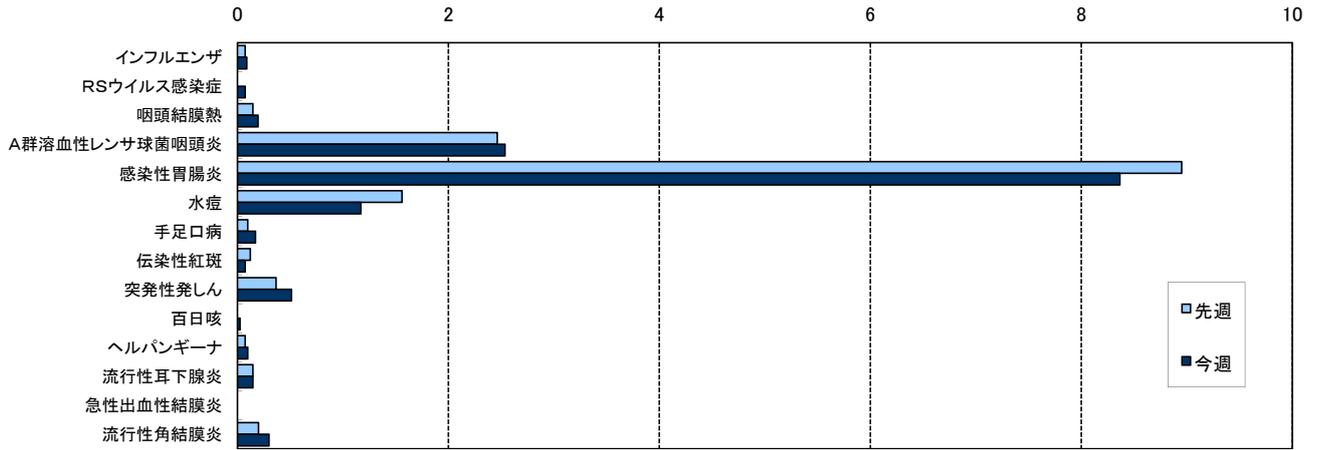
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

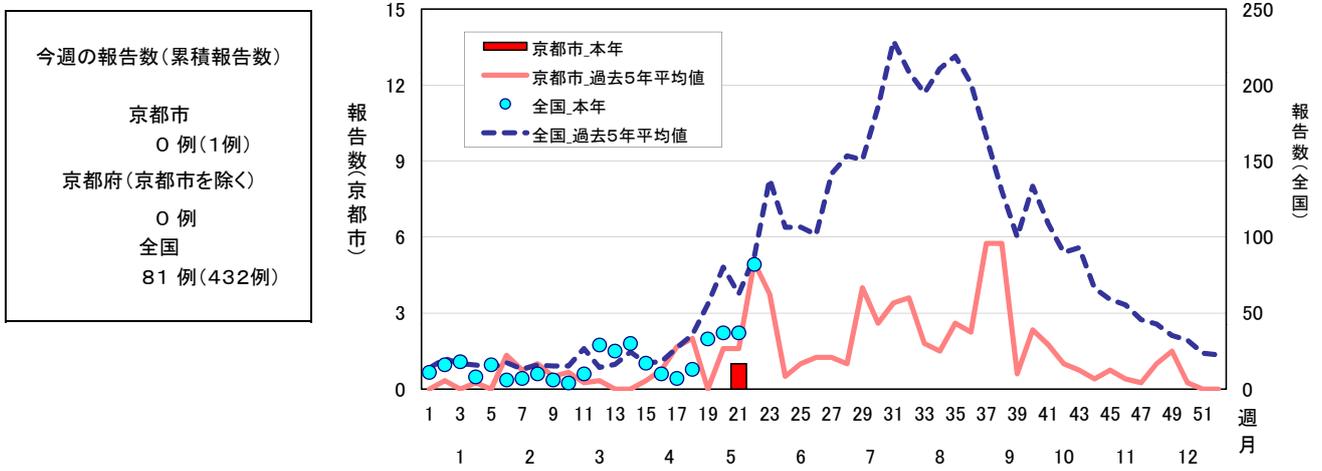
(注) 京都市のデータは, 平成24年6月7日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第22週)と先週(第21週)の定点当たり報告数の比較

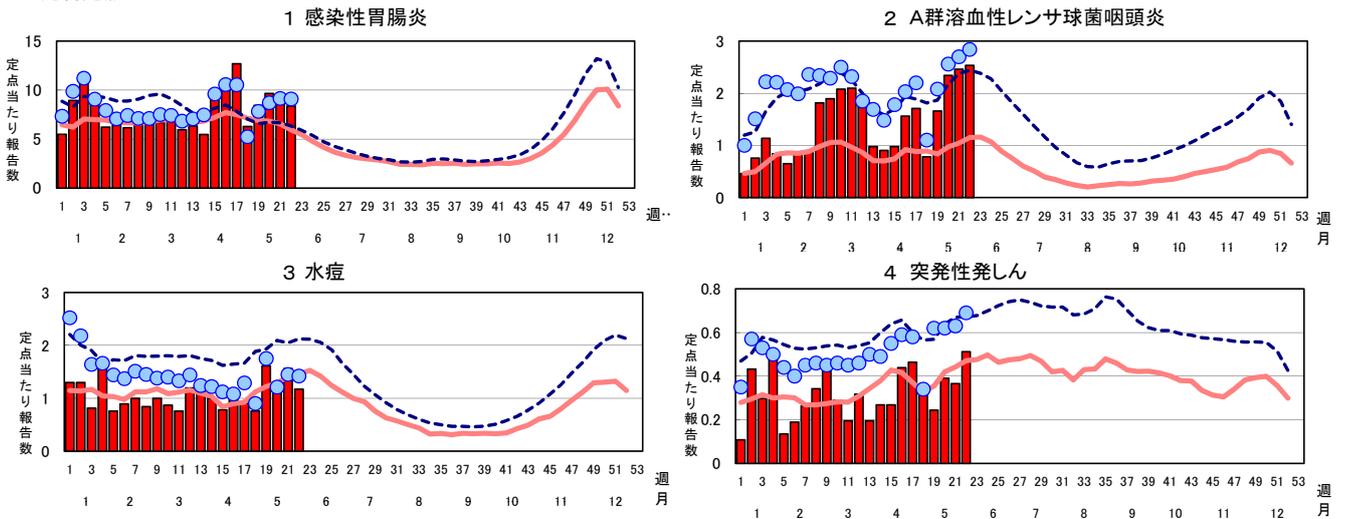


## 2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

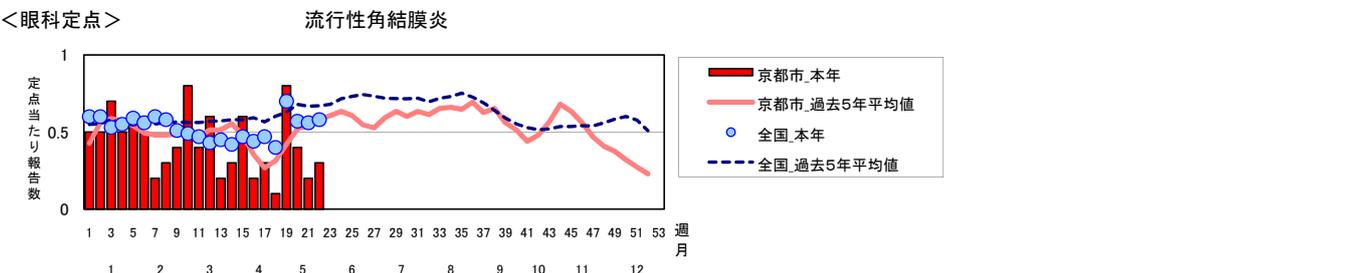


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



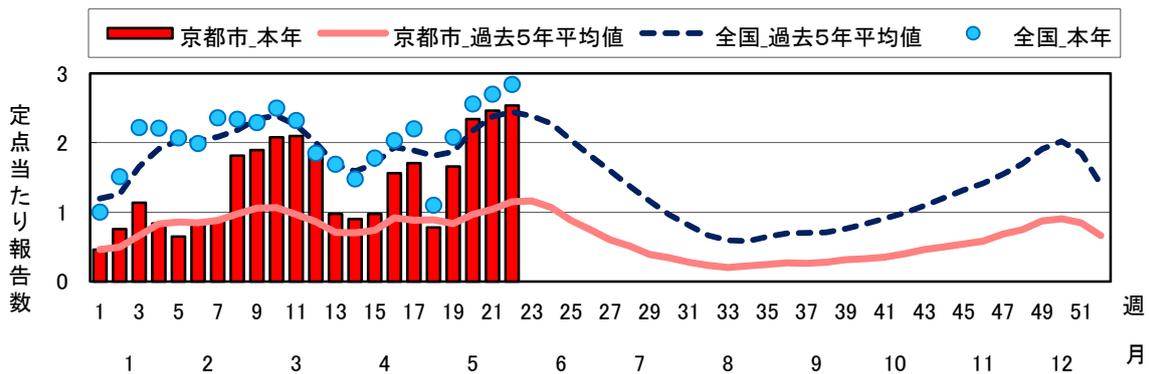
## 第22週(5月28日～6月3日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、2.54(104例)で、過去5年平均値(1.15)の2倍以上となっています。例年冬季から夏季にかけて発生が多くなっています。感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染が主であるといわれており、冬休み、春休み、ゴールデンウィークなどの発生の少ない谷間がみられています。本年は特にゴールデンウィーク後の第19週(5月7日～5月13日)以降、過去5年平均値を大きく上回るとともに、連続して増加していますので、今後の動向に御注意ください。

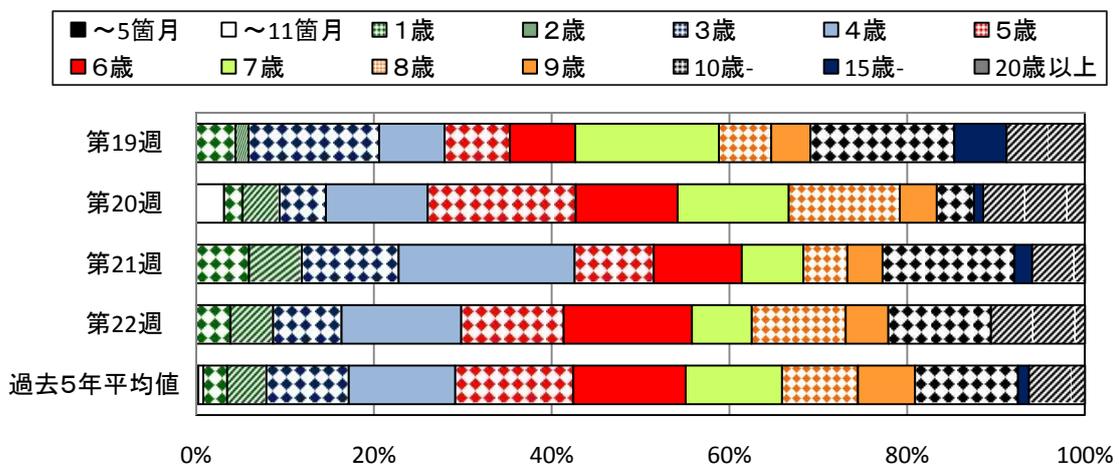
年齢階級別にみると、1歳以上の幅広い年齢階級から報告がありますが、6歳が15例(14.4%)と最も多く、次いで4歳14例(13.5%)、5歳12例(11.5%)となっています。

行政区別定点当たり報告数では、西京区が5.00と最も多く、次いで伏見区4.86、左京区4.50の順となっています。

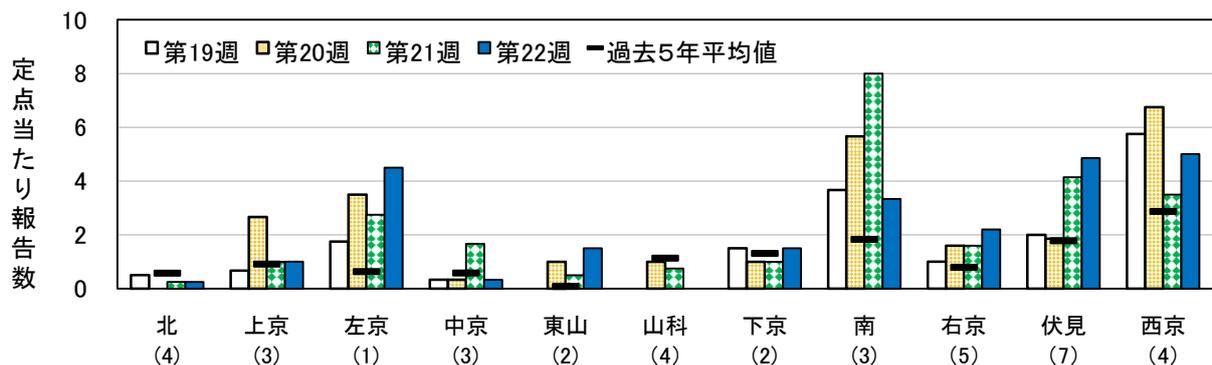
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別定点当たり報告割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



( )内は行政区別の定点医療機関数